

令和2年度 自己評価書

学校名	和歌山市立 野崎西 小学校
校長氏名	田窪 伸
作成日	令和 3年 3月 12日

1 教育目標

自ら学ぶ意欲と強い信念を持ち、社会の変化に主体的に対応して
たくましく生きる心豊かな児童の育成に努める

2 本年度の取組についての評価

	確かな学力の向上	ゆたかな心の育成	健やかな体の育成	開かれた学校
指標	<ul style="list-style-type: none"> 全国や県学習到達度調査で基本問題の正答数が県平均を目指す わたしは毎日の勉強がわかると答えている児童 90% 児童の興味・関心・意欲を引き出せる指導の工夫をしている教師 100% 	<ul style="list-style-type: none"> 学校が楽しいと感じる児童 100% 道徳教材の活用率 100% いじめの解消率 100% 	<ul style="list-style-type: none"> 朝ごはんを食べてくる児童 100% スポーツテストでA・B判定の児童 50% 積極的に運動をおこなうよう計画し、実践した教師 90% 給食が楽しみな児童 90% 	<ul style="list-style-type: none"> 学校の様子がよく分かったという保護者 95% 子供は学校の様子がよく話すと感じる保護者 95%
重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ◎教員一人一人の授業力向上 ◎児童からの発言を大切に授業の推進 ○家庭学習の定着 	<ul style="list-style-type: none"> ◎道徳・人権教育の充実 ◎一人一人を大切にする教育の推進 ○体験的活動を多く取り入れ、心豊かな子供を育てる ○全児童を全職員で育てる 	<ul style="list-style-type: none"> ◎体力向上の推進 ◎基本的生活習慣の確立 ○危機回避能力の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ◎家庭・地域との連携充実 ○地域の教育資源や人材活用の推進 ○学生ボランティアの活用
取組の状況	<ul style="list-style-type: none"> 国語・算数の提案授業・協議会を通し、他者の板書例や授業を参考にしながら、個々の教員の授業力向上を目指してきた。 導入に時間をかけすぎず、話し合い・まとめの時間確保を行ってきた。 昼学や放課後学習を計画的に運用し、基礎学力の定着を図っている。 「自主学習ノート」を掲示することにより、作成をうながし、家庭学習の時間を定着させるよう啓発してきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 年間計画に従い、学年に応じた読み物資料の活用や体験的な活動を取り入れた授業を行った。 地域と連携しながら、清掃活動等に取り組んだ。 休憩時間や放課後においても児童と積極的に関わり、全職員で全児童を育てる学校運営を絶えず確認しながら、組織的に取り組んできた。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍のために朝の運動は実施できなかった。 体育の楽しさを学ばせるため教材研究や体育環境を整備し、授業実践をおこなってきた。また、事前・事後アンケートで研究を深めてきた。 健康生活チェックや歯磨きチェックを通して、基本的生活習慣が身につくよう取り組んできた。 避難訓練を通し、自ら考え、行動できる児童の育成に努めてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎月「学校だより」を保護者や地域に配布し、HPを通して情報発信に努めてきた。 作品展や文化祭を通し、公民館との交流を図った。 保護者や地域の人のボランティアで図書室を休憩時間に開放してきた。 本年度も和歌山大学の学生ボランティアを受け入れ、体力向上・学力向上、特別支援活動に活用することができた。
取組の成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> 全国学力テストにおいては、サンプルよりおおむね平均を上回っていたものの、県学力テストでは、平均を大きく下回っており、基礎基本のさらなる定着を目指す必要がある。算数の計算力のをつけること、考えを書かせる時間を確保する重要性を再認識した。 「うちどく」や「自主学習ノート」の定着を図るため、根気強く保護者への 	<ul style="list-style-type: none"> 毎学期の「いじめアンケート」を通し、いじめの早期発見・対応を心掛けた。 生活指導部会を必要に応じて開き、情報の共有・一貫した指導が行えた。 毎学期「学校だより特別号」で「いじめ防止の取組」を保護者や地域の方々に発信し、情報の共有を図ることができた。 SNSによるトラブ 	<ul style="list-style-type: none"> アンケートをもとに個人の課題を確認し、個に応じたスモールステップを重視し、できた喜びを実感させることができた。 時間を有効に活用し、規則正しい生活を送るという面に課題が残る。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎日の図書ボランティアや英語の読み聞かせ等充実した図書室運営が行えた。 コロナ禍のため、地震・津波の避難訓練、公園の清掃活動、公民館と連携した作品提示会などできなかった。来年度は、関係機関や地域と連携した行事を毎年継続しながら、より充実した取り組みにしていきたい。
改善方法	<ul style="list-style-type: none"> 評価問題等をより積極的に活用し、基礎基本の徹底を図る。 国語・算数主任が中心となり、計画的に公開授業・研究協議の時間を設定し、個々の授業力向上を目指す。 学力部をつくり、国語、算数の基礎基本の定着のためのカリキュラムや学習プリント等を検討していく。 自主学習のさらなる定着を目指し、家庭学習の充実するように積極的に各家庭に啓発していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 計画的に「いじめアンケート」を行い、早期発見に努め、全教職員が事実を共有して共通認識の下、組織的に対応していく。 道徳教育・人権教育を学校教育活動全般で充実させる。 関係機関の協力を得て、「情報モラル教室」等、計画的・継続的に実施する。 全職員が子供を細やかに観察し、保護者と連携しながら、いじめのない学校を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 個に応じた「めあて」を持たせ、課題克服に向けた取り組みの過程を大切に授業づくりを行う。 テレビやゲームに費やす時間を少なくし、早寝早起きを通して規律ある生活ができるよう啓発していく。 一人でも避難できるよう訓練を続けるとともに、避難経路の見直しをはじめ、地域方の支援をいただきながら防災教育の充実を図っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 各種行事を工夫し、広報活動を強化して日頃の学校生活を参観していただけるよう呼びかける。 読み聞かせや図書ボランティアなど、地域の人材確保に努め、より連携を強めたい。 和歌山大学への避難訓練を今後も地域に呼びかけ、地域と一体となった訓練を充実させたい。 地域先達の会をつくり、今後、学校行事や授業の支援していただく環境整備

3 その他の課題

毎日の清掃活動には児童・教職員ともに熱心取り組んではいるが、施設の老朽化が課題として残る。長年の課題であったトイレは、半分が改修されたが、残りの改修も望まれる。手洗い場は、すべてペンキを塗った。下駄箱をできるだけ職員室前集め、土足ゾーン設定(シート工事する)し、できるだけ靴下が汚れないように考えた。修繕作業には、校務員が中心となり、全教職員で取り組んでいるが、毎年優先順位をつけて、市施設課に要請しながら環境整備に努めていく。

全国学力テストにおいては、サンプルの県平均を超えたが、和歌山県学習到達度調査においては、4年・5年生の算数で基礎基本が定着しきれていない点や、全体的に無回答が多いのが気になる。これまで以上に、基礎・基本を徹底していく必要がある。また、子供たちから様々な意見を聞き出し、自分の考えをまとめてわかりやすい言葉で人に説明する習慣を、教育活動全体を通して身につけさせていきたい。そのために、教師が答えを与えるのではなく、時間をかけて、自分の考えを書かせる学習を中心として、粘り強く取り組んでいく必要がある。